

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370238

研究課題名(和文) 広島的女性作家・岡田(永代)美知代に関する基礎的および総合的研究

研究課題名(英文) A Fundamental and Comprehensive Study of Michiyo NAGAYO (formerly OKADA), a Female Writer from Hiroshima Prefecture

研究代表者

有元 伸子 (ARIMOTO, Nobuko)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：50202768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、広島県上下町出身の女性作家・岡田(永代)美知代(1885-1968)について、田山花袋の「蒲団」のモデルとしてのフィルターを排して、一人の女性作家として総合的に評価し直すことである。文献調査やインタビュー実施によって詳細な著作リストや年譜を作成した。また、生前未発表原稿の翻刻紹介を行なうとともに、残された作品や書簡を解析し、花袋との関係や地域性・労働・少女小説といった観点から、美知代の文学の特質を解明した。さらに、著作権継承者の許しを得て、これらの成果をホームページで公開し、広く研究と普及に寄与させた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to comprehensively reevaluate Michiyo NAGAYO (formerly OKADA) (1885-1968), a female writer from Jogecho, Hiroshima Prefecture, not through the filter of the model for Katai TAYAMA's novel, "Futon" but as an independent female writer. Detailed production list and chronological record were prepared through bibliographic surveys and interviews. Together with the reprinting of the works not published during her lifetime, the works and letters she left behind were analyzed, and the characteristics of Michiyo's literatures were clarified from the viewpoint of the relationship with Katai as well as of locality, labor and story for young girls. ultimately all of these outcomes were posted on the website.

研究分野：人文学

キーワード：岡田(永代)美知代 田山花袋 少女小説 広島文学

1. 研究開始当初の背景

1885 (明治 18) 年、広島県甲奴郡上下町 (現・府中市上下町) の豪家に生れた岡田美知代は、神戸女学院を中退して上京。田山花袋に師事して文学を学んだが、同志社の学生・永代静雄との交際が発覚して帰郷。明治 40 年、花袋が自身と美知代・静雄をモデルにして「蒲団」を発表したために、ゴシップの渦中に置かれた。

その後、再上京して永代と結婚した美知代は、永代美知代 の名で『ホトトギス』『スバル』などに短篇小説を掲載。大正期には、『少女世界』などを舞台に多くの少女小説を書いた。ストウ夫人の「アンクルトムズ・ケビン」の本邦初訳『奴隷トム』(大正 12 年) などの著書もある。永代と離婚後、大正 15 年に渡米、太平洋戦争勃発直前の昭和 16 年に帰国して、昭和 43 年に没するまで広島県北の庄原市に在住した。

岡田(永代)美知代は、田山花袋の小説「蒲団」の女主人公・横山芳子、あるいは「縁」の敏子のモデルとして強大なフィルターのもとで扱われ、小説家・翻訳家・雑誌記者としての彼女自身に言及されることは極めて少なかった。著作リストや年譜も整っておらず、従来の研究では、「ある女の手紙」など、一部のよく知られた作品に関する考察がなされていただけであった。

研究代表者は、以前の科研費(23520227、平成 23~25 年度)によって、各地の図書館で雑誌新聞調査を行なって、美知代作品を発掘・複写するとともに、著作リストを作成した。また、生前未発表原稿を翻刻・紹介し、国木田独歩の最初の妻で有島武郎「或る女」の早月葉子のモデルでもあった佐々城信子と美知代が同時期に神戸女学院に在籍していたことが明らかになるなど、新発見があった。さらに、年譜的事項を整理したうえで、美知代作品と花袋との関係を考察して、「蒲団」に美知代の書いた小説が大きなヒントとなっていることなどを示した。

従来知られていた美知代の作品は約 80 であったが、調査によって、著書 6、新聞雑誌掲載 216、生前未発表原稿 12 まで確認できた。だが、未調査の新聞雑誌も多く、さらなる調査が必要であった。あわせて美知代の晩年に親しかった原博己氏や親族へのインタビューなども継続して行なう必要があり、花袋との関係についても発展して考察すべき課題は多い。また、美知代の作品は、『新編女性作家全集 3』(菫柿堂)所収の 2 小説しか刊行されておらず、研究者や一般読者が作品を読むことのできる環境を整える必要もあった。

美知代の生家は上下町が取得して改修し、2003 年に上下歴史文化資料館(現・府中市上下歴史文化資料館)として開館し、未発表原稿などの美知代に関する資料を収集・展示

している。研究代表者は、収集した美知代作品を館に提供するなど、研究成果を資料館に還元し、資料館も展示等に反映してきた。上下歴史文化資料館にはさらに美知代の生前未発表原稿も残されており、館と協力しつつ、これらを解析する必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、広島県出身の女性作家・岡田(永代)美知代(1885(明治 18)年~1968(昭和 43)年)について、著作リストや年譜などの基礎的データを整備した上で、著作権に配慮しながら、著作の紹介と公開に務め、田山花袋の「蒲団」のモデルとしてのフィルターを排して、一人の女性作家として総合的に評価し直すことを目的とする。

(1) 田山花袋のフィルターを排し、岡田(永代)美知代自身として総合的に評価する。

本研究は、長年にわたり、田山花袋「蒲団」のモデルというフィルターを通して眺められてきた岡田(永代)美知代を、一人の女性作家として評価し直す点に特色がある。師の作品のモデルとしてスキャンダルの渦中におかれる経緯を、花袋研究の側からではなく、美知代の作品や評伝に関する資料を探ることにより、テクスチュアル・ハラメントを受けた美知代の側から把握し直していく。

(2) 女性職業作家成立の過程を検討する先行研究にリンクする。

日露戦後期の明治 40 年前後は文学が男性ジェンダー化していく時期であった。こうした時代において、女性がいかに作品を書き、作家として身を立てたかの検討は、『青鞥』『女子文壇』『少女世界』などのメディア研究として盛んに行われ、成果をあげている。このような共時的研究と呼応しつつ、明治末から大正期にかけての女性職業作家成立の過程の解明に寄与する。

(3) 広島県出身の女性作家研究の礎とする。

美知代には、広島(主として備後地区)を舞台とした作品や広島方言を用いたものが数作ある。作品検討や、府中市上下歴史文化資料館に保存されている資料の解読、上下町や庄原市の関係者へのインタビューを通じて、広島の女性文学として、岡田美知代を位置づけていく。

(4) 美知代作品を、ジェンダー/セクシュアリティ研究や少女研究・翻訳研究にリンクする。

美知代の書く作品のテーマは多岐に富む。「侮辱」(『女子文壇』明治41年4月)には女学生同士の親愛な関係と異性関係が、「里子」(『スバル』明治43年10月)では乳児を里子に出す女性の心理的・社会的葛藤が描かれ、ジェンダー/セクシュアリティの観点から読解できる。また、美知代が書いた少年少女小説や翻訳は、ほとんど存在が知られていない。近年とみに研究が盛んである少女研究・翻訳研究とリンクしていく。

(5) 作品の公開により、多くの読者・研究者に美知代作品を読むことのできる環境を整える。

美知代作品は種々の研究に寄与しうが、従来は著作の全貌も不明で、作品を読むことも容易ではなかった。研究代表者は著作権継承者とも良好な関係を構築しており、著作権に留意しながら、紙媒体やインターネット上での作品の公開に務め、研究や普及に寄与する。

3. 研究の方法

(1) 著作リストを改訂し、作品を収集・解読して、評価を行う。

田山花袋「蒲団」のモデルというフィルターを排して、一人の女性作家として岡田(永代)美知代を正當に評価し、あるいは同時代の文化的事象の中に位置づけるために、可能な限り正確な著作リストと年譜を作成・整備し、それを基に、作品や伝記的事項の検討を進めることが必要である。各地の図書館等での調査により著作リストを改訂し、作品を解析して評価を行なう。

(2) 資料分析やインタビューにより、年譜を作成する。

上下歴史文化資料館(広島県府中市)や田山花袋記念文学館(群馬県館林市)に所蔵されている資料や、親族・関係者へのインタビューを通じて、「蒲団」事件以降の美知代の動向を解明する。その上で、広島県出身の一人の女性作家が職業作家となっていく過程と、その後の渡米・帰国をどのように過ごしたのかを明らかにし、評価する。

また、著作・年譜をもとに、同時代の女性作家や地域・性・少女の中に総合的に位置づけ、広島(芸備地域)という地域性、ジェンダー/セクシュアリティの規範、少女小説との関連を検討する。

(3) 作品と作家紹介の公開を進める。

他の研究者や一般読者に供するために、著

作権継承者と相談して著作権に十分に配慮しながら、著作の公開を準備する。作業補助者(大学院生)によりデジタル化を行い、インターネット公開を進める。併せて、紙媒体での著作選集の編集の準備を進める。

4. 研究成果

(1) 著作リストの改訂、作品の公開と評価

・各地の図書館・資料館等での文献調査を継続して行い、美知代の著作リストを改訂した。(ホームページ「広島県の女性作家 岡田(永代)美知代」)

・上下歴史文化資料館に収蔵されていた生前未発表の小説「デツカンシヨ」を翻刻し、解説を付した(雑誌論文)。当該作品には、美知代の実兄で夏目漱石の後任一高教授の岡田實磨が描かれており、同時代の漱石受容、官学と私学の関係、英語や方言など言語認識の状況などが考察できた。

・花袋「蒲団」刊行後の美知代と花袋の関係について検討し、従来言われているよりも早く、美知代が花袋についての抵抗を行っており、その恭順と抵抗の様相を明らかにした。(雑誌論文)

(2) 年譜の作成と作家の総合的な評価

・上下歴史文化資料館と協力して、関係者のインタビューや実地踏査を行い、作家紹介を行った(ホームページ「広島県の女性作家 岡田(永代)美知代」)。

・併せて、作品の解読等に反映させた(雑誌論文 など)。

・さらに、作品や作家についての総合的な評価を行った(雑誌論文)。

(3) ホームページを作成し、研究成果を広く公開

・収集した著作を、作業補助者(大学院生)の協力を得てデジタル化(PDF)をした。

・著作権継承者に、公開の許可を得た。

・府中市上下歴史文化資料館(広島県)、田山花袋記念文学館(群馬県館林市)、原博己氏などから、画像等の資料の貸与を受けた。

・ホームページ(「広島県の女性作家 岡田(永代)美知代」)を作成し、収集した資料を公開した。

http://home.hiroshima-u.ac.jp/okadami_chiyo/index.html

- ・ホームページは研究と普及のプラットフォームとなるべく、「作家紹介」「年譜」「著作リスト」「参考文献案内」「リンク」によって構成し、美知代に関する基本的な資料を公開した。
- ・特に著作リストはデジタルアーカイブを兼ねており、美知代の作品をPDFファイルで読むことが可能であり、ホームページを利用した機関や個人から、好意的な評価を多くいただいている。
- ・あわせて、紙媒体での著作選集を刊行するための準備も進行中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

有元伸子、板倉大貴、萬田慶太、熊尾紗耶、永代美知代「デツカンシヨ」解説 夏目漱石の後任一高校教授・岡田實麿にみる近代日本、表現技術研究、査読無、12号、2017、pp.1-18
<http://doi.org/10.15027/42721>

有元伸子、板倉大貴、萬田慶太、熊尾紗耶、資料翻刻 永代美知代「デツカンシヨ」(2)、内海文化研究紀要、査読無、45号、2017、pp.63-84
<http://doi.org/10.15027/42928>

有元伸子、推定・永代美知代作「新夫人の打明話」の描く結婚生活 別れる事情と花袋「縁」、花袋研究学会々誌、査読有、33号、2016、pp.1-10

有元伸子、擬装による恭順と抵抗 田山花袋「蒲団」後の岡田美知代の小説、国文学攷、査読無、228・229 合併号、2016、pp.13-26
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00039702>

有元伸子、板倉大貴、ダルミ・カタリン、萬田慶太、熊尾紗耶、資料翻刻 永代美知代「デツカンシヨ」(1)、内海文化研究紀要、査読無、44号、2016、pp.19-33
<http://doi.org/10.15027/40169>

有元伸子、岡田(永代)美知代研究の現況と可能性 家事労働 表象を例に、日本近代文学館年誌 資料探索、査読無、

10号、2015、pp.35-46

有元伸子、田山花袋「蒲団」と岡田美知代 「恩は恩、怨みは怨み」、群馬県立土屋文明記念文学館 第84回企画展図録「文豪 田山花袋 - 近代の小説を模索した日々」、査読無、2014、pp.28-29

[学会発表](計1件)

有元伸子、『蒲団』以後の岡田(永代)美知代と田山花袋、花袋研究学会 第55回定期大会、2015年6月20日、東洋大学(東京都文京区)

[その他]

- ・ホームページ 「広島的女性作家 岡田(永代)美知代」
http://home.hiroshima-u.ac.jp/okadami_chiyo/
- ・新聞執筆 有元伸子、「蒲団」のモデルを脱して、中国新聞夕刊、2014.8.29「でるた」
- ・新聞における研究紹介記事 「蒲団」のモデル 岡田美知代(待田晋哉記者)、読売新聞夕刊、2015.7.4、

6. 研究組織

(1)研究代表者

有元 伸子 (ARIMOTO NOBUKO)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50202768